

名古屋 ・ メキシコ姉妹都市提携40周年プレイベント
～ギターとマリンバで聴く日本 ・ メキシコ～

2016年12月17日(土)15:00開演(14:30開場)
名古屋国際センター 別棟ホール

佐藤紀雄(ギター)

松田康介(マリンバ)

ロドリゴ・シーガル(ゲスト作曲家)

主催:名古屋市、名古屋姉妹友好都市協会
協力:在日メキシコ合衆国大使館、名古屋芸術大学音楽学部、CMMAS
企画・運営:ニンフェアール



ごあいさつ

名古屋姉妹友好都市協会会長 新開 輝夫

来年度、名古屋市とメキシコ市は姉妹都市提携40周年を迎えます。記念すべき年を目前に控え、名古屋姉妹友好都市協会では「名古屋・メキシコ姉妹都市提携40周年イベント～ギターとマリンバで聴く日本・メキシコ～」を開催いたします。

両市は昭和53(1978)年2月16日に姉妹都市提携を結びました。提携を記念し、メキシコ市が新設した公立中学校を「ナゴヤ中学」と命名したり、名古屋市上下水道局によるメキシコ市上下水道局への技術支援、東山動物園とチャプルテペック動物園の動物交流、両市の小中学生の絵画作品を交換して開催される児童生徒書画展などが実施され、40年近くにわたり行政・教育・文化など多くの分野で活発に交流が続いております。

本年6月にはメキシコから日本メキシコ学院の生徒たちが名古屋を訪れ、名古屋市の高校生と互いの文化や暮らしについて紹介する交流会を行いました。また、9月には、メキシコから来た楽団マリアッチによる演奏会を開催し、メキシコ料理もご堪能いただきながらメキシコ文化への理解を深めていただきました。

日本とメキシコ合衆国の関係は歴史的にも古く、16世紀半ばに遡ります。多くの日本人がメキシコへ移民として渡るなど、両国は良好な関係を築いてきました。その成果もあり、近年のメキシコ市では、日本料理だけでなく、アニメやコスプレなどにも人気があり、日本文化への関心が高いそうです。

この度のイベントによりメキシコ文化への理解と関心を深め、姉妹都市メキシコ市をより身近に感じていただくきっかけとなりましたら幸いです。

伊藤美由紀(作曲)：愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリストラン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員として IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。世界各国のコンクール、音楽祭に入賞、入選し、国内外で作品の発表を続けている。また、ニンフェアール、JUMP の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニンフェアール第10回公演は、第14回佐治敬三賞受賞。《時の砂》が ALCD80 からリリース。ミラノのスヴィーニ・ゼルポーニ出版社からフランコ・エヴァンジェリスティ国際作曲コンクール優勝作品《古代の息吹をしのぶ。。。》の楽譜出版。執筆活動として、『音楽現代』に特集記事や公演批評を掲載。メキシコのコンピュータ音楽雑誌『Ideas Sonicas』に自作品の分析論文(英語)が掲載。名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院などで後進の指導にもあたっている。 <http://www.miyuki-ito.com>

岩本渡(作曲)：愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻及び同大学院修了。第50回日本音楽コンクール作曲部門第1位。日中友好交歓特別演奏会で管弦楽作品を発表。以降、愛知「わかしゃち国体」の競技用音楽、入場行進曲の作曲、フィギュアスケート本田武司の競技用音楽の編曲、NHK BS 番組のテーマ音楽、「愛・地球博」EXPO ドーム映像コンテンツの音楽や劇場版アニメ「ボトムズ・ファインダー」のサウンド・トラックを担当。また、「第120回ダレム音楽のタベ」(ドイツ)、GMMAS主催「現代音楽コンサート」(メキシコ)において、電子音響や映像を取り入れた作品を発表。国際コンピュータ音楽会議ICMC-SMC2014(ギリシャ)入選。女性合唱のための「女の愛と生涯」や金管バンド曲集「JB クラブ」などの編曲出版。また、キーボード奏者としても幅広く音楽活動を行う。現在、名古屋芸術大学教授、愛知県立芸術大学、大同大学非常勤講師。

田中範康(作曲)：東京生まれ。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学作曲科・器楽科(オルガン専攻)を卒業。作品は、日本、アメリカ、韓国などの放送メディアや、ドイツ、フランス、北欧、ベルギー、韓国、アメリカ、メキシコなど世界各国の音楽祭などで、著名なアーティストの演奏により広く紹介されているほか、《室内楽作品集 Vol. I》(VMM2011、1994)、《室内楽作品集 Vol. II》(VMM2036、2002)、《田中範康作品集》(ALCD-87、2011)、《田中範康作品集 II》(ALCD-103、2014)に収録されている。また、《Twilight》、《Air》がマザーアースより楽譜出版されている。現在、名古屋芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科教授。日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員、日口音楽家協会会員。

プロフィール

佐藤紀雄(ギター): 1951年生まれ。1971年(現)東京国際ギターコンクール優勝。以後、ギター演奏と指揮活動を広範囲に行ってきた。ギター演奏においてはクラシックレパートリーの他、武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福土則夫、その他多くの作品の初演、また指揮者としても内外の新しい作品の初演を含め数多く演奏している。海外からの招聘も多く、これまでにパリ、ニューヨーク、ハンブルク、ロンドン、メルボルン、北京、メキシコ、デンマーク、フィンランド、エストニア、ブルッセル、アントワープ、ハバナ、イタリアなどでリサイタルや各地のアンサンブルと共演してきた。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し音楽監督として毎年定期演奏会を開いてきた。またアンサンブル・ノマドでも海外から多く招かれ、ハッダースフィールド音楽祭、ガウデアムス音楽週間、モレリア音楽祭など主要な音楽祭で演奏してきた。1990年、京都音楽賞(実践部門賞)。1994年、中島健蔵賞。1996年、朝日現代音楽賞。2002年、アンサンブル・ノマドとして第二回佐治敬三賞を受賞。ギター・ソロのCD、アンサンブル・ノマドのCDなど多数リリースしている。桐朋芸術短期大学、青山学院短期大学、また日大芸術学部各ギター科で後進の指導にあたっている。

松田康介(マリンバ): 1992年長崎県生まれ。上野学園大学卒業、現在愛知県立芸術大学博士前期課程。マリンバを山ヶ城陽子、小森邦彦、打楽器を岡田全弘、深町浩司、各氏に師事。第11回九州音楽コンクール管打楽器部門で金賞受賞。第34回・35回高校生音楽コンクールにて2年連続金賞及び全九州大会への推薦を受け、35回全九州大会において金賞及びグランプリを受賞。第43回長崎県新人演奏会出演。またアウトリーチ演奏活動を数多く行う。2011年には演奏グループカーサ・フェリーチェを結成。首都圏の福祉施設を中心に慰問演奏を行い、SONY学生ボランティアファンドより奨学金(A-コース)を受けハンディキャップ支援のフェスティバル「ハートフルフェスティバル」を開催(2013)。上野学園大学主催平成27年度文化庁大学を活用した文化芸術事業「音楽を学びほぐす」にて音楽ワークショップのレクチャー講師、サントリーホール主宰レインボー21「フンメル先生とその時代」にてフンメルに扮してのナビゲーターなど、演奏外活動も行う。

ロドリゴ・シーガル(作曲): 1971年メキシコ市生まれ。メキシコ市の音楽研究・リサーチセンター(CIEM)作曲学部を卒業し、ロンドン市立大学のエレクトロ・アコースティック・コンポジション学部博士課程修了。マリオ・ラヴィタスによる作曲ワークショップに参加。デニス・スマレイ、ジャヴィエール・アルヴァレス、フランコ・ドナトニ、ジュディス・ウィアード、マイケル・ジャレル、アレハンドロ・ヴェラスコ、ファン・トリーゴスらに師事する。メキシコ国立大学の音楽学部でポスト・ドクターを修了。現在、メキシコ音楽とソニック・アーツセンター(CMMAS)所長(www.cmmas.org)。カルチャー・マネージメントのディプロマも保持し、メキシコ内外で芸術的、教育的な活動を続けている。

プログラム

●挨拶:名古屋姉妹友好都市協会会長 新開輝夫

1) 田中範康:《饗宴の時》より第1章と3章(2013) ギターとエレクトロニクスの為の
Noriyasu TANAKA: *Sparkling in the Space III* (I. & III.) for guitar with electronics

2) 岩本渡:《リフレクション》(2013) マリンバとエレクトロニクスの為の
Wataru IWAMOTO: *Reflection* for marimba with electronics

3) ゴードン・スタウト:《マリンバの為のメキシコ舞曲》から2楽章(1947)
Gordon STOUT: 2nd Mov. from *Two Mexican Dances for marimba*

4) エベルト・バスケス:《地獄の天使》(2013) ギターとエレクトロニクスの為の
Hebert VAZQUEZ: *Angel del abismo* for guitar with electronics

休憩

●メキシコ紹介映像(制作:佐野元洋)、挨拶:ロドリゴ・シーガル

5) 伊藤美由紀:『プロメテウスの光』より《I.発火点》(2011) ギターとエレクトロニクスの為の
Miyuki ITO: I. *Flash Point* from *Prometheus' Light* for guitar with electronics

6) マヌエル・ポンセ:《エストレリータ》(小さな星) ギターとマリンバ版
Manuel PONCE: *Estrellita*

7) ロドリゴ・シーガル:《シナプシス》(2008) ギターとエレクトロニクスの為の
Rodrigo Sigal: *Sinapsis* for guitar with electronics

佐藤紀雄(ギター)/Norio SATO, guitar
松田康介(マリンバ)/Kousuke MATSUDA, marimba

プログラムノート

[第1部]

1. 田中範康:《饗宴の時》から1章と3章(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

本作品は3つの章から成り立っているが、間断なく、続けて演奏される。1章はエレクトロニクスの響きの中に、随所にギターが絡んでいく序章的な意味合いの強い章である。3章は、あらかじめギター奏者によって録音されたパッセージを様々な手法でエディットしたものに、リアルタイムで演奏されるギターとのアンサンブル中心に、音楽が展開されていく。

(田中範康)

2. 岩本渡:《リフレクション》(2013) マリンバとエレクトロニクスの為の

この作品は、マリンバを中心に Electronics Sound が呼応します。日本の伝統的な絵画手法である水墨画のように淡く繊細に、時に力強く、また輝かしく響くように作曲しました。

(岩本渡)

3. ゴードン・スタウト:《マリンバの為のメキシコ舞曲》から2楽章(1947)

ゴードン・スタウト(1952-)はマリンバ演奏者、また作曲家としても非常に著名なマリンバ音楽家の第一人者である。メキシカンダンスは 1947 年に作曲者本人により初演された。第一楽章又は第一ダンスは、当初マリンバの為のエチュード第2巻第8番であった。しかし後に友人ワーレン氏の助言により独立した一つの音楽とされて「2つのメキシカンダンス」と名づけられた。スタウトは、その二つのダンスを書き終えると、ワーレン氏へ献呈した。第一ダンス(第一楽章)と第二ダンス(第二楽章)は、全く異なったテーマと手法により作曲されている。今回演奏する第二ダンスでは、左右の手の複合的な3連符と32分音符のリズムと調性の変化により軽やかな音楽を作り出している。また、第一ダンスは、左右の手を独立させ、8分音符のオスティナートとシンコペーションのリズムから成る作品である。この2つのメキシカンダンスは、リサイタルやソロコンクールに度々選曲されており、マリンバソロレパートリーのスタンダード曲として考えられている。

(松田康介)

4. エベルト・バスケス:《地獄の天使》(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、佐藤紀雄氏に捧げられている。テープパートは、メキシコのモレリア市の CMMAS のスタジオで、ホルヘ・アルバのテクニカル・サポートのもと、作曲者本人とギタリストのフランシスコ・ジルによって演奏して録音したギターサウンドに基づいて作られている。奈落の天使アバドンに言及するヨハネの黙示録の一節があるが、むしろ、ダンテの《新曲》の中のベアトリーチェを考えていた。ウェルギリウスによって案内されたあとに、9層の地獄を通じて詩人を天国へ導いたのは彼女である。

(エベルト・バスケス)

●エベルト・バスケス:(1963~)メキシコ国立音楽大学でギターをマルコ・アントニオ・アンギアーノに、作曲をマリオ・ラヴィスに師事する。カーネギー・メロン大学(アメリカ)では、レオナルド・バラダ、ルーカス・フォスに作曲を、レザ・ヴァリアに電子音楽を師

事し、修士修了。プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)で作曲学部博士課程修了。メキシコ内外で、数々の受賞、奨学金を取得。2000年以來、モレリア市(メキシコ)の大学の教授。

[第2部]

5. 伊藤美由紀:『プロメテウスの光』より《1.発火点》(2011) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、愛知芸術文化センターの委嘱により、ダンスコラボレーション作品としてクラリネット、ギター、オンド・マルトノ、エレクトロニクスのために制作した4つのセクションからなる《プロメテウスの光》の第1セクションである。プロメテウスは、ギリシャ神話に登場する人間に火を与えた神であり、それ故に、原子力は「第2のプロメテウスの火」とさえ言われる。作品タイトルは、プロメテウスが願ったであろう将来につながる可能性への想いを込めて、『プロメテウスの光』としている。全体を通してD音を中心に動き、最終音もD音に到達する。D音は、Direction(方向)、Destination(目的)、Distortion(歪曲)、Dream(夢)の頭文字に関連して作品の中心音としている。第1セクションのギターとエレクトロニクスのための《発火点》は、初演者でもある佐藤紀雄氏により、単独の作品として世界各国で再演されている。エレクトロニクスパートは、佐藤紀雄氏の協力により前もって録音した素材を加工している。

(伊藤美由紀)

6. マヌエル・ボンセ:《エストレリータ》(小さな星) ギターとマリンバ版

ボンセはパリでデュカスに師事し、フランス近代音楽と自国メキシコの伝統音楽を融合させた美しい作品を多く残し、メキシコを代表する作曲家となる。この曲は歌曲として作られたが、その美しいメロディーは、バイオリンやギターその他多くの楽器に編曲されて演奏されてきた。本日はギターとマリンバによる二重奏によって演奏される。

(佐藤紀雄)

7. ロドリーゴ・シーガル:《シナプシス》(2008) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、アンサンブル・ノマドと、音楽監督でありギタリストの佐藤紀雄氏により委嘱された。演奏者が、インストラクションとコンピュータが送る音に反応し、前もって制作されているエレクトロニクスを補うことで、異なったアプローチを展開することが、作品の目的である。リアルタイムでプロセスを変化させ、コンピュータからギター奏者への責任を変化しながら、シナプシスは、毎回、同じ箇所でも盛り上がるが、異なった手段で音を生み出す。何年間もかけて達成された佐藤紀雄氏の演奏版は、特別な感情と喜びを与えてくれる。

(ロドリーゴ・シーガル)